

第6回 宇宙輸送小委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年1月24日（水） 15：00－16：30

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松尾座長、青木委員、石田委員、片岡委員(オンライン出席)、新谷委員、中須賀委員、山崎委員

(2) 事務局(宇宙開発戦略推進事務局)

風木局長、渡邊審議官、山口参事官、植木参事官補佐

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

上田課長、竹上企画官

経済産業省製造産業局宇宙産業室

伊奈室長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

経営企画部門

森次長

研究開発部門

沖田第四研究ユニット長

4. 議事要旨

(1) 宇宙技術戦略（宇宙輸送）について

本議題では、昨年12月に宇宙政策委員会で議論された「宇宙技術戦略の考え方」に基づき、その中の宇宙輸送分野について、技術の重要性や今後の開発の進め方について議論した。委員からは、以下のような意見があった。

- 技術の重要性の評価については、一度定めたらそれを変えないのではなく、技術戦略の策定後は国内外の動きを見据えつつローリングを行い、柔軟に見直していくことが重要である。
- 我が国の宇宙輸送産業が国際競争力を強化していくためには、コスト競争力が非常に重要であり、それは宇宙輸送の自立性にも繋がると考えられる。
- また、再使用ロケットは、有人輸送や高速二地点間輸送などの宇宙輸送システムの発展に繋がるが、コスト増にもつながり得る。そのため、打上げ運用の効率化など、基幹ロケット・民間ロケット両方のコスト低減を実現する技術の開発も、再使用型ロケットと両輪で進めていくことが必要である。
- 宇宙産業に係るサプライチェーンにおいては、海外製品への依存が見受けられ、リスクが高い要素となっている。サプライチェーンの自律性確保にむけては留意が必要な課題である。
- 射場や宇宙港とその周辺産業を連携させていくことは、国内の産業基盤や商業宇宙活動を活性化させるために、非常に重要である。米国などの海外事例を参考としながら検討を深めることが必要である。
- 技術の開発だけでなく、実証の頻度を増加させていくことが、我が国の宇宙産業全体で必要である。技術戦略を推進する上では、そうしたことを可能にする環境をつ

くることが重要である。

(2) ロケット開発等人材基盤を強化するスキル標準に関する調査について

本議題では、ロケットや人工衛星の設計・開発・打上げを担うことのできる人的基盤の強化に向けて、内閣府が次年度に行う調査事業について議論した。委員からは、以下のような意見があった。

- 宇宙産業に従事する者にとって、必要なスキルを可視化することは非常に重要である。
- 宇宙産業へ他産業から人材を呼び込んでいく取組を経済産業省において進めており、連携しながら進めていくと良い。
- スキル標準の社会実装にむけた道筋についても、他分野の先行事例も参考としながら、今後しっかりと議論をすすめることが大事である。

以上